

シラバス参照

④ 科目名/Subject	宗教学
④ 曜日・講時・教室/Day/Period/Place	後期 水曜日 2講時 川北キャンパスC202
④ 科目群/Categories	全学教育科目展開科目-人文科学
④ 単位数/Credit(s)	2
④ 対象学部/Object	医保歯工
④ 担当教員(所属) /Instructor (Position)	オリオン クラウタウ 所属:国際文化研究科
④ 開講期/Term	4セメスター
④ 科目ナンバリング /Course Numbering	ZDH-RES101J
④ 使用言語 /Language Used in Course	日本語
④ 備考 /Notes	

④ 授業題目 /Class Subject	【国際共修】近代におけるオカルティズムの歴史
④ 授業の目的と概要 /Object and Summary of Class	「オカルト的」や「オカルトっぽい」といった言葉は、現代の日本で生きる人間であれば、恐らく目にしたことがあるであろう。漫画や小説、アニメや映画など、「オカルト」の語をそのタイトルに掲げる作品は数多く存在し、現代日本文化に深く浸透しているといえるものである。しかし、今日の我々が何となく使用しているその「オカルト」という言葉はいったい、如何なるものを指しているのだろうか。占星術や降霊術など、前近代の残存とも思われる実践を思い浮かべる人もいれば、円盤や宇宙人という近代独自の現象を連想する人もいる。本科目では、特に19世紀以降における「宗教」と「科学」といった領域の形成を念頭に置きつつ、「オカルト」を軸としたもう一つの近現代史を考えたい。
④ 学修の到達目標 /Goal of Study	「オカルト」なる領域の構築という見地から19世紀以降の「宗教」や「科学」の概念形成を再認識し、宗教史的なものの見方を理解していく。
④ 授業内容・方法と進捗予定 /Contents and Progress Schedule of the Class	本科目では、担当教員が基本的な事情について講義し、文学作品や映像資料を多用して、「オカルト」を軸とした近現代宗教史の展開について考えていく。ミニット・ペーパーを利用したディスカッションによって、受講生同士の学び合いも図る。 ① ガイダンス ② 「オカルト」という視座を考える ③ 欧州編 近代秘教思想の歴史的背景 ④ 欧州編 「オカルト」と「科学」の領域形成 ⑤ 欧州編 19世紀における魔術の「再発見」 ⑥ 欧州編 神秘思想団体・秘密結社の流行 ⑦ 欧州編 メディアのなかのオカルト ⑧ 演習——オカルト世界としての近代ヨーロッパ ⑨ 日本編 明治期における秘教思想の受容 ⑩ 日本編 明治末期・大正期の千里眼ブームと超心理学 ⑪ 日本編 1970年代におけるオカルト・ブームへの道 ⑫ 日本編 オカルト・ブームの展開 ⑬ 日本編 オウム真理教とオカルト・ブームの「終焉」 ⑭ 演習——オカルトのグローバル史と近代 ⑮ まとめ
④ 成績評価方法 /Evaluation Method	平常点50点、期末レポート50点。平常点は出席およびミニット・ペーパーの内容を踏まえた議論等に基づいて、算出する。
④ 教科書および参考書 /Textbook and References	
④ 関連URL /URL	https://web.tohoku.ac.jp/modern-japan/
④ 授業時間外学修 /Preparation and Review	歴史資料等および文学作品など、事前に読んでくれることが求められる。テキストの詳細は、講義時に指示する。
④ 実務・実践的授業	

/Practical business ※○は、実務・実践的授業であることを示す。 /Note: "○" Indicates the practical business	
授業へのパソコン持ち込み 【必要/不要】 /Students must bring their own computers to class [Yes / No]	No
連絡先 (メールアドレス等) ※Emailは@の置き換えに注意 /Contact (Email, etc.)	klautau@tohoku.ac.jp
その他 /In Addition	外国人留学生等特別課程(日本語)の授業と合同で開講する。なお本科目において、映像作品などのメディアも多用する。いわゆる「ホラー映画」など、鑑賞する映像作品の一部には、その作品の持つ様々な性格に起因した、暴力的、性的場面、あるいは場合によっては差別表現と受け取れる描写も含まれている。受講する方は、あらかじめご了承ください。
更新日付 /Last Update	2022/07/07 11:52

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

One-credit courses require 45 hours of study. In lecture and exercise-based classes, one credit consists of 15-30 hours of class time and 30-15 hours of preparation and review outside of class. In laboratory, practical skill classes, one credit consists of 30-45 hours of class time and 15-0 hours of preparation and review outside of class.